

北陸新幹線（仮）上越駅

周辺地区 (新潟県上越市)

- 計画期間 平成19年度～平成23年度
- 面積 376ha
- 交付対象事業費 4,117.5百万円
- 市人口 185,892人

ポイント 新しい玄関口にふさわしい上越の顔づくり

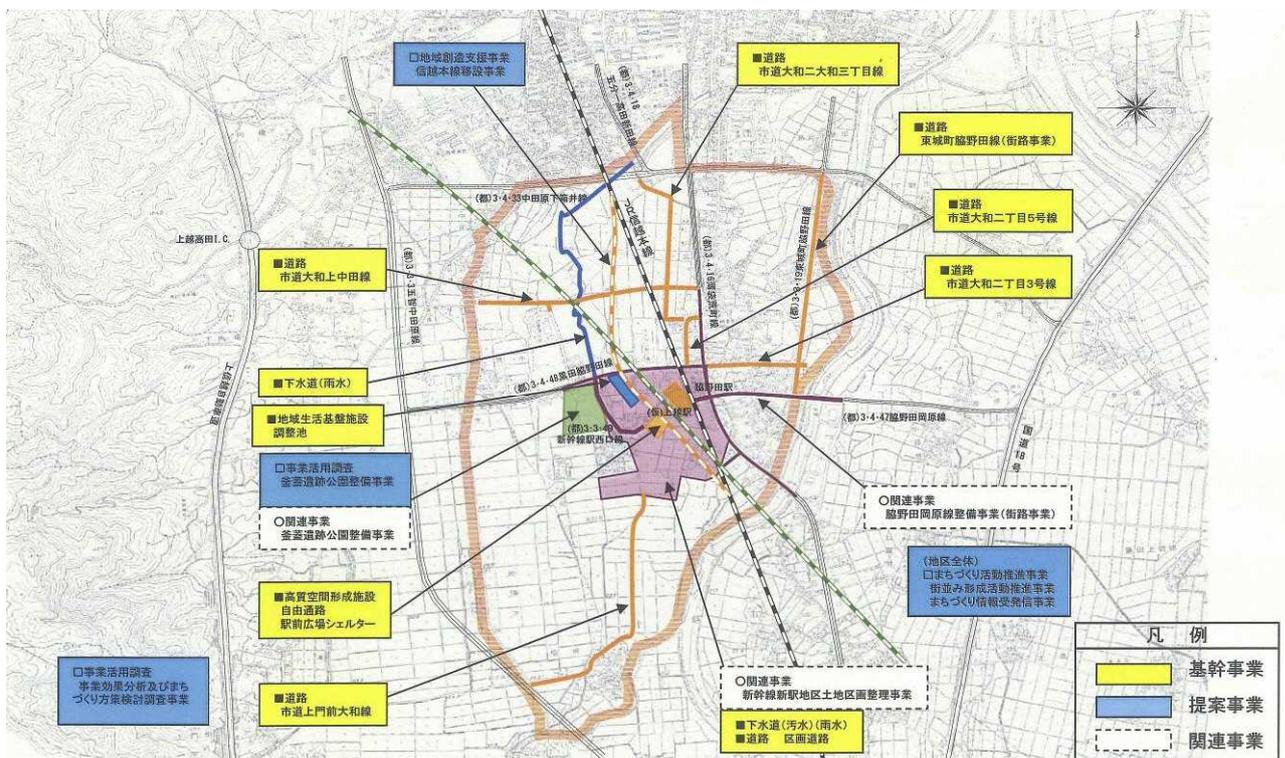
地区概要 新幹線新駅を核に、様々な出会い・触れあいの拠点づくりを行うとともに、既存市街地環境を改善し、誰もがいきいきと働き、暮らせる拠点の形成を図る。

目標 新幹線新駅を中心に上越地域の新たな顔としての都市機能強化を行うとともに、既存市街地の都市基盤整備を合わせて行うことにより周辺地域へ新幹線効果を波及させる。

指標 快適で魅力的な都市空間の整備を住民とともに行うことにより、まちづくりに関する関心を高め、生活環境に対する満足度を向上させることを目標とした。

生活道路満足度	38.8% (H18)	→	40% (H23)
遺跡シンポジウム参加数	0人/5年 (H18)	→	400人/5年 (H23)
まちづくり協議会の開催	20回/5年 (H18)	→	40回/5年 (H23)

事業内容 基幹事業 (3,466.8百万円) → 道路 (延長7,812m)、下水道 (面積9ha)
雨水排水路 (延長1,278m) 調整池、自由通路、駅前広場シェルター
提案事業 (650.7百万円) → 信越本線移設事業 (延長1,800m)、釜蓋遺跡公園整備事業
事業効果分析及びまちづくり方策検討調査事業
街並み形成活動推進事業、まちづくり情報受信事業



地区の現況と課題

- 平成26年度末に予定されている北陸新幹線の開業に向け、(仮称)上越駅の周辺に商業業務機能、情報交流機能など多様な都市機能を誘導するため、交通結節機能を強化する必要がある。
- 新幹線整備効果を周辺地域へも広く波及させるため、新駅へのアクセス道路や既存の市街地整備などの都市基盤整備を推進する必要がある。

提案事業の特徴

信越本線移設事業

北陸新幹線上越(仮称)駅は、現在のJR協野田駅の約120m西側に設置されるため乗換抵抗が生じ、さらに駅前が鉄道に挟まれた矩形な土地となるため、広域駅としての駅前空間が十分に確保できないなど、多くの課題が発生することとなる。そこで、信越本線を新幹線新駅の西側に移設し、一体駅として整備を行うことにより、鉄道ネットワークの充実強化と高齢化社会に配慮した乗り継ぎ円滑化、並びに鉄道の利用促進を図ることとし、併せて、信越本線の移設に伴い幹線道路との離隔が十分に確保されるため、駅前広場をはじめとする公共施設の適正な配置と有効な土地利用を図ることが出来ることとなる。

釜蓋遺跡公園整備事業

新駅の西側で国史跡に指定された釜蓋遺跡を地域の貴重な資源として保全するとともに、近接する国史跡の吹上遺跡と斐太遺跡をあわせ、ネットワーク化した広域歴史公園として整備し、まちづくりに積極的に活用していく必要がある。

街並み形成活動推進事業

新たな上越地域の玄関口にふさわしい良好な街並みの形成に向け検討するほか、地権者とともにその実現に向けた組織づくりについて検討を行う。

まちづくり情報発信事業

駅周辺のまちづくりをPRするとともに、広く意見収集を行うため、駅周辺のまちづくりの専用HPを立ち上げる。また、パンフレット、まちづくりニュースの発行も行う。

計画策定プロセス

まちづくり協議会の設置

新幹線新駅周辺のまちづくり及び地域の活性化に寄与するため、地元住民によるまちづくり協議会を設置し、各部会で様々な活動を行っている。

釜蓋遺跡にかかる保存活用計画の策定

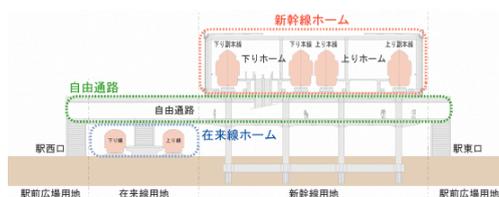
発掘調査による資料・データの蓄積と合わせ、釜蓋遺跡を上越市の歴史や文化を発信する拠点として整備・活用していくための保存活用計画を策定する予定である。



▲北陸新幹線(仮称)上越駅建設地



▲(仮称)上越駅予定地付近の建設状況



▲信越本線移設事業計画図



▲(仮称)上越駅予定位置から長野・東京方面を望む



▲平地性環濠集落「釜蓋遺跡」と出土土器